

3-1編集企画体制への道(2)

出版事業②「大型本」を作る①「初めてのハンドブック」 代表取締役 吉田 隆

前に本欄で出版社の原点は著者との出会いであると述べたことがある。ことに小出版社にとって、一流の著者との出会いは会社の進路を左右する力となる。そうした事情は情報出版業界でも同じである。サイエンス・フォーラム〇〇社長と農林水産省食品総合研究所〇〇〇〇室長(当時)や、リアライズ(現サイベック)〇〇社長と東北大学〇〇〇〇教授との出会いが両社の発展の原動力となっただけでなく、食品のサイエンス、半導体のリアライズという会社のカラーなり方向性を際立たせる要因ともなった。

NTSの歴史は九州大学湯原浩三、清山哲郎両教授との出会いが原点である。今回より、著者との出会いを軸に「大型本」と会社発展の歴史を辿る。

●「地熱開発総合ハンドブック」

湯原先生との出会いは、フジテク時代に遡る。「自動車軽量化」の次のテーマに選んだ「地熱」セミナー(昭和54年開催)で講師を依頼したのがきっかけだった。両セミナー共、オイルショック後の産業界の新エネ・省エネ指向を象徴するテーマの一つだった。セミナーの後、「地熱」を本として大系的にまとめたいと思った。社内では余りに範囲が狭いと大方の不評をかこったが、私は掘削・探査技術やヒートパイプ、温水利用等の地熱開発固有の技術が汎用的な産業用途を秘めると考えた。「自動車軽量化」セミナー大成功の余勢を買い、社内の説得に成功すると、湯原先生に相談し快諾を得た。湯原教授は昭和53年に日本地熱学会が設立された直後でもあり、ここで専門領域を成書にまとめておきたいという意向を持たれた。ついては事前に紹介したい人物がいるという。ある日、待合せ場所の虎の門教育会館ロビーに向くと、さっそうと現れたのが防衛大学校関岡満教授(現、弊社科学技術情報事業部リーダー)だった。編集委員には、その後、学会を支えることになる若手研究者・技

術者10数名が名を連ねた。編集会議で本書のタイトルに「ハンドブック」を付そうと提案されたのは関岡教授だった。当時、フジテクでも同業他社でも本のタイトルに「ハンドブック」という呼称は使わなかった。フジテクは、昭和46年の会社設立から6~7年を経て、「資料集」即ち速報性一辺倒の本作りから、「設備異常診断と予知保全」(昭和51年刊)、「センサ実用便覧」(昭和53年刊)など、序々に体系化を意図した本作りも手がけ始めていた。だが、「ハンドブック」は大手出版社の世界の話だという固定観念も手伝い、題名に使う発想自体が欠如していたと思う。早速、社に戻り少し得意げに上司に報告したところ、「ほーっ、うちもそんな本を出せるようになったか」と妙に感慨深げだった。私にとって初めてのハンドブック「地熱開発総合ハンドブック」は、昭和57年に発刊された。A4サイズ総頁数1100頁の大著は、初版500部、定価68000円と当時としては異例の高価格だった。その後独立を経て、しばらく後、小野社長に「何冊売れましたか?」と尋ねると、「刷を重ねて1500冊くらいかな」とこともなげに答えた。その時、「してやったり!」と同時に「よく売ったものだ!」という二つの思いが交錯したことを思い起こす。

●学会事業

その後、湯原先生には独立後の苦境の中、親身になって面倒を見ていただいた。日本地熱学会誌の編集・発行を受注する期間を経て、平成2年には丁度移転先を探していた学会事務局を当社内でお世話させて頂くことになった。続いて、平成3年には日本地熱学会の縁を通じて日本伝熱学会が当社内に移転した。平成8年には、日本伝熱学会の編集による「環境と省エネルギーのためのエネルギー新技術大系」を発刊した。両学会は、NTSにとって出版基盤が比較的弱いエネルギー・資源分野を人的ネットワーク

から切り拓く重要な戦略拠点である。平成9年には、NTSが事務局を行った「国際温泉科学会第33回箱根大会」(主催:国際温泉科学会日本支部)で、数年振りに湯原、関岡両先生と再会の機会を得た。組織委員長湯原浩三、実行委員長関岡満というハンドブックの強力コンビが復活し、本大会の大成功にNTSもいささかお手伝いすることができた。その際のご縁もあり、その後関岡先生には当社科学技術情報事業部の地球物理部門のリーダーを6年の長きにわたり務めていただいている。

●著者の夢、編集者の熱意

「本作り」は著者と編集者との出会いから始まる。「いい本を作ろう」という熱意が相手に伝わると、相手も自分の夢を編集者に託そうとする。編集者の人生は、その時から始まるといってもいい。熱意と夢が大きければ、両者のコラボレーションは「本作り」を超えて、新たな挑戦に向かうこともあるだろう。その意味では、「本」ではなく「出会い」こそが出版社の本質である。それが、出版社の不思議と魅力であり、秘めたる可能性でもある。



●今月の人事

【入社】

【異動】

【退社】

●編集後記

おいしいミルクティを作るにはミルクが先であると発表したのは、英王立科学協会。紅茶が先だと、ミルクに含まれる蛋白質が高温の紅茶で変性し、風味が落ちると説明している。こんなところにも科学の力が生きていることを知った。(k)

●編集部からのお願い

NTSニュースでは読者の皆様からのお便りや投稿をお待ちしております。また、開催予定の勉強会・イベント等、掲載をご希望される方は下記宛までご連絡ください。

NTSニュース

2003年10月号(通巻56号)
2003年9月25日発行